

2.4.2 教育方法のあり方

【評価項目 6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

(現状の説明)

1. 本学における授業形態の特徴として、従来から少人数（小集団）教育に積極的に取り組んできたことが挙げられる。現状においてもその方針は継続され、演習科目・言語教育科目・情報教育科目等において実施されている。他方、専門科目の基礎的なレベルのものや総合教育科目の中には、履修者数が300名を超える大教室での授業も存在するが、総合的には、その教育内容と教育目的に照らし合わせて、適切な授業規模での運営が実現していると考えられる。
2. 授業におけるマルチメディアの活用については、近年その需要が高まる一方である。VTRをはじめとする視聴覚機器（AV機器）や、パワーポイントに代表されるプレゼンテーションソフトの活用などPCを利用した授業が増加し、これらの機器備品は、教室における必須の基本装備となった感がある。VTRやプロジェクター等は、中小規模の教室では依然として固定ではなく共用によって対応しているところもあるが、収容人数が300名を超える大教室では11教室中10教室で固定設置が実現し、一定の装備水準に達していると考えられる。
3. 本学の各キャンパス間や他大学との「遠隔授業」については、これまで立ち後れ気味であった。2000年度秋学期から「遠隔授業」の実験的運用が開始され、遠隔授業設備が設置された。開始初年度である2002年度からの本格的運用は西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパス間で延べ3科目に留まったが、その後、2003年度は4科目、2004年度は5科目と順次増大の傾向にある。

(点検・評価の結果)

1. 少人数教育の実践の場としては、とくに各学部における低学年からの演習科目が大きな役割を果たしている。そこでは、専門科目の理解に必要な基礎知識の提供とともに、プレゼンテーションの方法や文献検索の手法などについても教育されており、新入生が大学教育に早期に馴染むことが出来るように工夫されている。
2. マルチメディアの活用については、教室レベルの装備はもとより、授業形態の多様化に伴い学生個人のレベルに向けた装備の充実が望まれるところである。自由に利用できるPCの増設、各教室への情報コンセントの設置、PCの貸出制度などを今後実現してゆく必要がある。
3. 「遠隔授業」は2000年度秋学期から遠隔授業の実験的運用が開始され、徐々に実施科目数が増加しているが、その反面、ハード面での安定性について問題点が指摘されている。

(改善の具体的方策)

1. 少人数教育の充実、教室不足と表裏一体の関係にある。サブゼミや班別活動などを行うことによってより効果的な少人数教育を実施するには、正規の開講数以上の教室数が必要である。小教室の不足解消を教室の増設によって直ちに実現することは困難であり、対処療法的ではあるが各学部・研究科と教務部との協力のもとで、カリキュラムや開講スケジュールの精査を進めることにより、より効率的な教室使用を目指している。
2. マルチメディア関連の機器備品の充足に当たって、従来本学では、各学部・研究科等が個別に予算申請を行い、整備を進めてきたが、2000年度からは大学教務部が各学部・研究科の需要をとりまとめたうえで予算申請することにより、より効率的な装備の充実が図られるようになった。各教室の機器の充実はもとより、設置されて10年を経て性能的に低下しているものもあるため、一定周期を設けてのリプレースも行う必要があり、総合的な計画を立てて整備充実を図っていく。また、サイバーキャンパス構想について検討中である。文部科学省の補助金を得て、2003年度から継続して以下のとおりe-learningの実験を行っている。今後、評価を纏め本学におけるサイバーキャンパスの方向性を策定していく。

(1) 遠隔授業

「総合コース 464」(代表：阪倉 篤秀)

「情報社会学」(奥野 卓司)

(2) 授業収録(動画配信予定)

「マクロ・エコノミックス」(村田 治)

(3) ネットによるe-learningシステム上での意見交換・資料配布・課題提出等(2003年度以降の全科目)

「情報化社会と人間」(中條 道雄)

「異文化理解特殊講義」(中川 慎二)

「ドイツ語海外研修デュースブルク」(中川 慎二)

「ドイツ語インテンシブ初級2」(大崎 Dorothea, Spindler Thomas, 中川 慎二)

「地域フィールドワーク(宝塚)」(木本 圭一)

「総合コース 625」(代表：杉原 左右一)

「基礎演習 12, 13」「研究演習Ⅱ」(中川 慎二)

「ドイツ語(K)Ⅰ」(大崎 Dorothea, 田村 和彦, 中川 慎二, 西田 隆雄, Hohn Michael, Boldt Christian, 宗像 まさ子)

「ドイツ語(GL)1組」(中川 慎二, 藤田 美代子)

「ドイツ語(GL)3組」(尾野 照治, 中川 慎二)

「ドイツ語(GL)Ⅰ」(荒木 英行, 竹田 和子, 田村 和彦, 中川 慎二, 西田 隆雄, Nishida Regina, 藤田 美代子, 米田 安博)

「ドイツ語(GL)Ⅱ」(荒木 英行, 竹田 和子, 田村 和彦, 中川 慎二, 西田 隆雄, Nishida Regina, 藤田 美代子, 米田 安博)

「アジア会計論」(木本 圭一)

3. 「遠隔授業」の実施は、多様化する受講ニーズへの対応には欠かせないツールの一つ

であると認識している。今後、学部教育だけでなく社会人を多く受け入れる大学院授業には、より有効なツールとなり得る。当面、学部、大学院あわせて10科目程度の実施を目指している。「遠隔授業」を積極的に展開してゆくためには、ハード面での充実もさることながら、機器使用に際してのサポート面での充実が必要である。本学においては、各遠隔授業に1名のアシスタント（教学補佐）が付き、授業の円滑な運営を支える体勢を取っているが、今後更に円滑かつ充実した運営とするためには、これを支えるためのサポート体制の確立を検討していく。